

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100230
法人名	有限会社 コミュニティーハウス
事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条
所在地	松山市北条588-3
自己評価作成日	平成23年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者一人一人に合わせたケア、利用者の気持ちに寄り添ったケアを目指している。 地域の幼稚園や小・中学校、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。 季節を感じて頂くために、壁の飾りを利用者と共に制作している。 季節に合わせ行事を行っている。（花見・納涼祭・花火・餅つき等） 希望があれば旅行に行くことが出来る。（昨年8月一泊2日で2名実施） 本人のしたい事を実現する。（温泉に行く。外食に行く。法事に参加する等） ホームの雰囲気明るく、利用者、職員共に笑顔が多くみられる。 面会時ご家族様と積極的にコミュニケーションをとっている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、地域の方達にとって「介護のことなら何でも相談できる窓口」となれるよう、地域の方達との関係作りに取り組んでおられる。地域のだんじりの資金作りのために、月2回、地域では資源ごみの回収があり、事業所も協力されている。敬老の日には、地域の幼稚園児の訪問があり、利用者の肩たたきをしてくれたり、歌を聞かせてくれ利用者を喜ばせてくれている。お礼に利用者がハーモニカを吹かれた。 「寝る前の入浴」を希望される利用者も多く、利用者の希望に応じて夕食後からも、入浴できるよう支援されている。入浴後、利用者は「今日はよく眠れるわい」と笑顔で言われるようだ。男性職員の介助を嫌がる利用者には応じておられる。目の不自由な利用者には入浴中、職員が常に声をかけながら安心して安全に楽しめるよう支援されている。 「宮島に行きたい」と希望される利用者がおられ、利用者2名職員2名で一泊旅行を楽しまれた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム・コミュニティーハウス・北条

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 坂口 明子

評価完了日

平成23年 9 月 30 日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 玄関・リビング・事務所に明示し利用者や家族が理念を理解できるように努めているとともに、スタッフもその都度確認できるようにしている。 入職初日にはミーティングの時間をもち最初に理念の説明をする時間を持っている。	
			(外部評価) 法人理念をもとに、職員で話し合い、「利用者と共に泣き笑い怒り悲しめる存在であるように共に生きていきます」という事業所独自の運営理念を作成された。管理者は、利用者一人ひとりに寄り添うことの大切さを職員会議時に話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の活動の情報を得て、地域の活動に参加したり、近所の散歩をしたり、ホームの前を通る方に挨拶や言葉掛けをするように努めている。今は職員が中心にしているので、今後は利用者も含めた活動をしていきたい。小学生や幼稚園等との交流を積極的に行っているが、もっとその機会を多くしたい。	
			(外部評価) 事業所は、地域の方達にとって「介護のことなら何でも相談できる窓口」となれるよう、地域の方達との関係作りに取り組んでおられる。地域のだんじりの資金作りのために、月2回、地域では資源ごみの回収があり、事業所も協力されている。敬老の日には、地域の幼稚園児の訪問があり、利用者の肩たたきをしてくれたり、歌を聞かせてくれ、利用者を喜ばせてくれている。歌は、事前に利用者の「好きな歌」を聞いてくれており、今年のみなで、「ふるさと」をリクエストされた。お礼に利用者がハーモニカを吹かれた。福祉体験で受け入れた中学生から「ここで働きたい」と言ってもらったことを職員はうれしく思っておられ、「これからも頑張りたい」と話しておられた。事業所の玄関先には、自動販売機を設置し、テーブルとベンチを置いておられ、中学生が宿題をしている姿も見られるようだ。	回覧板で地域行事の情報を得ることもでき、今後は利用者と一緒に参加したいと考えておられる。さらに地域のネットワークを拡げて、地域の中に利用者が出かけて行き、活動できるような機会も作っていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症に対する理解や事業所の特性を地域にどう活かしていけるのかを話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      行事や地域活動への参加状況、またグループホームが地域に何ができるのかを話し合っている。                      今年度は3月の震災を教訓に防災についての取り組みを中心に御意見を頂いている。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議は、事業所の居間で開催されている。事業所からは、行事や日常生活の様子を写真を見ていただきながら報告されている。会議時に避難訓練を実施し、メンバーの方達に見学していただき、感想や意見を聞き取られたこともある。又、「虐待について」の勉強会を開催されたり、利用者も会議に参加して、「大事なことは、怒らないこと、ほめること」と、みなの前でケアについて感想を言われたこともある。今後事業所では会議に職員も順番に参加して、直接意見を聞いたり発言する機会を作りたいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      市担当者も参加する地域会議に積極的に参加し、意見交換や情報収集に取り組んでいる。また、地域密着型サービス連絡会議では事例発表やホームの実情を話し合い、市担当者に理解していただけるように努めている。</p> <p>(外部評価)                      市の担当者からは、熱中症や食中毒についてアドバイスをいただいたり、災害時について相談した際には「同じ立地条件である近隣の事業所に現状を聞く等してはどうか。」と提案していただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      普段の生活の中で身体拘束について話し合ったり、スタッフ同士確認しあっている。職員会の時に併せて身体拘束についての勉強会や話し合いを行う事で、スタッフは身体拘束をしないという意識を持ち、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。                      新しく職員も入ったので再度勉強会を開き理解を深めたい。</p> <p>(外部評価)                      「座っている利用者をテーブルで立たないようにすることも、利用者の自由を奪うことになり、拘束になる。」等、管理者は日々の中で気になることがあれば、職員に話すようにされている。さらに、定期的に勉強会を開催して、職員の意識の統一を図り、身体拘束のないケアが実践できるよう努めておられる。調査訪問時、玄関は自由に出入りできるようになっていた。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関してのミニ勉強会を行った。職員全員の参加は出来なかったため、不参加者には資料の回覧等で周知した。虐待に関しての勉強会や日々の生活の中で話し合う事でスタッフが意識して対応できていると思うが、全ての職員が虐待についていけないことだと理解していても、何が虐待に当たったのかを理解できていないかもしれないので、継続した勉強会や話し合いを持つことが必要である。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加したスタッフは理解していても、していないスタッフの制度についての理解度はそれぞれであると思う。勉強会や研修報告、資料の回覧なども生かし全てのスタッフが制度についての理解を深める事が大切である。また、必要である利用者に対して円滑に制度が活用できるように関係機関と連携を図って行きたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約・改定時には、それに基づく書類(契約書や重要事項説明書)を利用者・家族同席のもと説明しながら読むようにし、不安な部分や疑問点があれば分かりやすく説明している。また、後日、問い合わせ等があった時でも、責任者がきちんと対応し納得・安心していただけるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を実施しており、その中で多数の意見や要望を頂いた。また、日々の生活の中で利用者からの意見や要望を聞いたり、家族には面会時や葉書や手紙、電話連絡等で近況報告を行う事で家族とのコミュニケーションをはかり、その中から頂いた意見や要望を職員一同で話し合い、出来る限り反映させている。 (外部評価) 年一回の家族会時に、ご家族から「写真が欲しい」との希望があり、事業所で「フォトブック」を作ることを検討されていた。又、「何かかわらせてほしい」と申し出てくださるご家族もあり、納涼祭時には、買い出しを手伝っていただき、「たいへん助かった」と管理者は感謝されていた。今後は年末の大掃除等にも協力いただけるようお願いしたいと話しておられた。愛犬「さくら」の散歩を以前は利用者で行っておられたが、現在は以前入居されていた利用者のご家族の方が連れて行ってくれている。	事業所の広報誌の再開や運営推進会議への参加、又、会議の内容の報告等、ご家族への情報提供を工夫されて、さらに、ご家族から事業所のサービスについて意見や要望を具体的に引き出していかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度の職員会議に会社の代表者が出席し、現状把握を含め職員の意見を聞く場としている。また、稟議書を随時受付しており新しい取り組みや備品などに関しても意見が述べられるようになってきている。	
			(外部評価) 「外出」や「系列事業所の機械浴の使用」等について職員が稟議書を作成して提案等ができるようになってきている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与規定に従い、本人の能力、やる気をくみ取れるような仕組みにしている。またキャリアパスの要件にもある通り資格取得や技能の向上に向けた取り組みも行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職場内の研修を始め、職場外での研修参加も出来る限り参加できるように配慮している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 協議会にも入会しており、他の事業所との交流や意見交換も行えるようにしており、質の向上を目的とした取り組みを行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にかかわらず事前訪問を行い、本人・家族と話し合いの場を設け、本人の希望や思いを出来るだけ多く汲み取れるように努めている。 利用前から入居に至るまで、一貫して同じスタッフが対応し少しでも話しやすい関係作りをし、本人の希望や要望、不安な事が無いが積極的に聞くようにしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前には必ず面会し、本人の状況や本人・家族の希望や思い等、話し合い、その訴えに柔軟に対応できるように、関係する事業所や関わる人も交え支援していけるように努めている。入居後の住居の変化による不安等も少しでも軽減できるように、家族の宿泊等の受け入れも柔軟に対応出来るようにしている。利用前から入居に至るまで、一貫して同じスタッフが対応するようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の身体・精神状態の見極めや希望・要望の把握を早急に行ない、また、家族の関係性や希望・要望を把握した上で、何を必要としているのかグループホームの職員だけではなく、ケアマネや関係する方々も交え話し合いを行い、必要であれば、その機関と連携を取り合い支援していけるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活において、本人が出来る限りの範囲で役割を持ち、また利用者同士やスタッフが協同する事で、それを通じて利用者同士やスタッフの関係性が向上できるように努め、介護する側される側といったような関係にならないように努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方は、本人の事を誰よりもよく知っている身近な存在であるという意識のもと、面会時や電話をする際の近況報告やお話、また分からないことは家族の方とも相談するなど本人の事を一緒に考えて関係を気付けるように努力している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの場所、人については本人や御家族様から情報を頂いているが、関係性を継続できていることが少ない。友人や知人の方が再び来られるようにお帰りの際には「また来てください」と一声かけるように心がけている。今後は積極的に情報を集め、関係が途切れないように支援していきたい。 (外部評価) 普段から利用者には「会いたい人はいませんか?」「行きたいところはないですか?」と聞くようにされている。「家に帰りたい」と希望する利用者には、まずはご家族とお話ができるよう、職員が取り次いでおられる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者同士の人間関係を把握し、仲の良い利用者同士には、その関係が長く続くように配慮し、そうでない方は無理に関わりを持たせようとはせず、スタッフをクッションとした関わりの持ち方が出来るように配慮している。利用者が孤立している時にはスタッフが話し相手になったり、別ユニットの利用者との関わりを持つ等工夫している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には何か相談事があれば、いつでも対応させていただくことを事をお伝えしている。退所された後でも御家族様に行事の御案内などをお送りすることもある。利用者様が退去された後も、ご家族様がホームの草引きをして下さったり、毎日ホームで飼っている犬の散歩をして下さったり交流がづづいている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の生活の中で利用者の希望や意向を聞けるような関わりや声掛けをするように努めている。また、利用者の意向や希望はスタッフ皆が把握できるように申し送りや記録に残し、必要であればカンファレンス等で話し合いを行ないスタッフ皆がその利用者の希望の暮らし方を提供できるように努めている。また、困難な場合は家族や身近な方から情報収集をする事で、本人の思いに近づけるように努めている。 (外部評価) 「文芸春秋」を長年読んでおられる方は、毎月10日の発売日を楽しみにされており、職員と一緒に買いに行かれている。温泉がお好きな方と一緒に出かけたり、コーヒーを飲みにお茶店に行くこともある。意思表示が難しい利用者には、ご家族や以前のケアマネジャーから情報収集して支援につなげておられる。魚釣りをよくしていた利用者には釣りのことを話題にされると表情がよくなるようだ。地図に関心がある利用者から「ご自分で思っていることと、実際に合っているか確かめてみたい」という希望があり、近々、出かけてみるようになっていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ケアマネジャーからの情報、事前訪問時や普段の生活の中から本人のお話、また、家族や身近な方からのお話等、情報収集しカンファレンスや申し送りでスタッフ皆が共有し把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 現在の一日の過ごし方がホーム側の流れにならないよう、気をつけている。ご本人の出来る事、出来ない事を把握する為、試したりする事はある。出来ない職員側が思い込んでいる部分もあると思われるので、今後は、利用者の正確な現状の把握に努めたい。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の思いや希望は日々の生活の中から出た本人の言葉や表情から汲み取り、家族の意向等は入居時や面会時に聞くようにしている。それをふまえて月に一度カンファレンスを行い職員間での意見交換や話し合いを通じて介護計画を作成している。しかし、カンファレンスに家族や本人の参加がほとんど無いのが現状で中々現状を打破できていない。今後は家族の思いも積極的に聴く機会を多く持ち介護計画に生かしたい。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、「本人の生活が楽しくなり、生きがいを持てるような」計画の作成に努めておられ、ご本人をよく知る利用者個々の担当職員が案を作り、各ユニットのリーダーが作成して、管理者が確認するようになっている。胃ろうを創設している利用者が「口から食べたい」と希望された際には、主治医やご家族と相談し、ジュースにトロミを付け口から摂ることができるよう計画に採り入れ支援された。現在、ご家族が来られて介助してくれる等、ご家族とも協力しながら、ご本人の希望に沿った支援に取り組まれている。日々の介護記録内には、介護計画の支援内容を記入され、計画は3ヶ月ごとに見直しされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録は利用者の言葉や行動・表情を中心に記載し、新たな気づきや変化も記載・朝夕申し送りを行なう事で職員間で情報を共有し実践にも活かしている。それに基づきカンファレンス等で話し合い継続的かつステップアップできるプラン作りに役立っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外出、外泊、病院受診、買い物、等、様々な状況の中で希望があれば、その都度対応し家族にも本人にも喜ばれている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の幼稚園との交流やボランティア団体の訪問などは積極的に受け入れている。利用者には近所の美容院を利用している方もいらっしゃる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 基本的に入居前にかかりつけ医がある場合は継続して受診できるように医師との連携を取れるようにしている。また無い場合は現在の協力医療機関や利用者・家族が希望される病院を伺い希望に添える様に対応している。かかりつけ医や利用者・家族が希望される病院の医師との連携を密にとっているため、利用者の状態や希望等を伝えやすい関係性ができている。</p> <p>(外部評価) 協力医の定期的な往診と、利用者の体調の応じて、電話で相談して往診してくださっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 医療連携体制による協力医療機関の看護師の訪問が週1度はあり、その中で健康チェックや、利用者の心身の状態を伝え適切な指示や円滑に医療が受けられる体制作りができている。看護師も馴染みの看護師の為、利用者もスタッフも相談しやすい関係である。また、急変時等も看護師を通じ医療機関との連携が取れるようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時は介護要約を持参し、医療機関が混乱無く対応できるよう、また、利用者がホームとの生活の差で混乱が生じないよう、病院にホームの様子や生活のペース等、情報提供している。入院中もスタッフがお見舞いに行き利用者が安心して治療を受けられるよう努めている、医師や看護師に状態を尋ねる事で利用者の状態の把握に努め早期退院できるようにホームの環境整備にも努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時と重度化した時に時にターミナルケアについての話を家族にする事で家族には理解を得ている、急変時や終末期の家族の混乱・不安を考慮しグループホームでの環境を整えたり、本人や家族の考えや希望を十分に話し合い、その内容をかかりつけ医に理解していただけるように普段から医師には本人や家族の意向を伝えるようにしている。また、状況の変化に柔軟に対応できるように、日頃からスタッフにはターミナルケアに対する意識付けをし、より家族や本人に安心してもらえるように努めている。</p> <p>(外部評価) 看取りについて、入居時にご家族の希望を聞くようにされているが「その時に考えます」と言われることが多いようだ。利用者の状態変化時には、ご家族と相談しながら看取りの方針を共有して支援されている。管理者は、「看取りに立ち会うことで、時間に限りがあることを感じたり、今後のケアの中で変わることもある」と考えておられ、利用者の看取りの時には、全職員に連絡をされている。又、看取り後にはカンファレンスを開き、支援について振り返るようにされている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年から玄関にAEDを設置した。急変時の対応については職員会で勉強会を行い、対応の再確認を行った。心肺蘇生法・AEDの使用法については前回の講習から数年立っており、職員からも早期の講習の実施の希望が出ている為、早急を実施したいと思う。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、全職員対象で日中・夜間想定火災に対する避難訓練を消防署員や防火機器会社職員の立会いのもと地域の方にも見て頂き、行なっている。その際、初期消火訓練・防火設備の点検も行なっている。運営推進会議で地域の方と災害における協力について話し合いを持っている。地震・水害等の災害に対しては、マニュアルが現在ない為、早急に作成をしなければならない。 (外部評価) 運営推進会議時、メンバーの方に避難訓練を見学していただき「もっと大声を出したほうがいい」「スリッパは危ないのではないか」「近隣の方に何を手伝ってもらうのか伝えておいた方がよい」等具体的に意見やアドバイスをいただいた。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保は徹底して行っている。入居時に家族・本人に個人情報の取り扱いについては説明し、病院受診等、必要な情報提供以外は外部に漏らすことは無い。利用者への言葉掛けや対応、プライベート空間の配慮や扉の開け閉め等にも気をつけている。対応についてはその都度気づいた事を職員同士で注意しあっている。 (外部評価) 意思表示が少なくなった利用者にも、職員は話しかけていぬいにすることを心がけておられる。他の利用者にご家族が会いに来られることを気にされるような方は、その間は居室で職員とゆっくり過ごす時間を作り、配慮をされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 決め付けや強制ではなく、利用者の意思を尊重し、日々の生活が豊かである実感をしていただけるように心がけ、全ての場面で利用者を選択して頂いたり自己決定していただくことで、自分で選べる楽しさを実感していただけるように努めている。選択が出来る利用者にはそのような声掛けを、そうでない方は意思表示が出来る声掛けに工夫をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の思いに合わせてその人のペースで生活をして頂けるように対応をしている。食事時間や就寝時間など利用者の希望で早めたり遅らせたりすることもある。スタッフは特に日課を作っていない為、柔軟に対応できている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服については、家族が購入をしたものを持参されたり、本人の好みのものを一緒に買い物に行き購入している。起床時に、その日着たい服を選んで頂く様にしている。また髪を散髪したり結んだりして髪型を変えてみたり、本人の好きなアクセサリーを付けたりするなど、おしゃれを楽しんでいただけるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と会話しながら食事をしたり、食事に楽しみを持って頂けるような工夫をしている。また、利用者の希望のメニューを反映させる為に、月に一度管理栄養士と食事委員会を開催し好みのメニューを作ってもらっている。食事を出来る限り自分で食べていただけるように食事形態にも工夫をしている。準備や片付け等もう少し利用者が参加しやすいような関わりをしていきたい。	
			(外部評価) 管理栄養士がメニューを作成して、その日の担当職員が中心に食事作りをされている。調査訪問時、職員は「ドレッシングいりますか?」と一人ひとりに確認してかけておられる様子がみられた。職員も利用者と一緒に同じものを食べておられ、利用者のご自分が食べて終わっても、席を立たずに、他の利用者とおしゃべりしたりして、まだ食べている利用者を気遣っておられた。調査訪問時、利用者は「このご飯はおいしいよ」と話してくださった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は毎食後必ずチェックし記録に残している。食事メニューは管理栄養士が栄養バランスを考え作っているが、栄養バランスのみに拘るのではなく、利用者の好みのもや旬の物を取り入れた食事メニューも考えてもらえるように毎月の食事委員会で伝えている。水分摂取量については、利用者によって大まかなものであったり、細かく摂取量をチェックしたりしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立している方については毎食時の口腔ケアが出来ていない人がいる。介助が必要な方については、概ね出来ているが、職員が忘れていたこともある。また、本人の口腔状態に合わせたスポンジやケルリーナ等の器具を使用したり今年6月訪問歯科協会の歯科診断を受け利用者の口腔内のチェックを行い治療の必要な方は受診を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日々の排泄チェックについては個別の排泄チェック表を用い、継続的に排泄のアプローチを行い、トイレで気持ちよく排泄できるように努めている。トイレで排泄可能な方はトイレで排泄をして頂いている。 (外部評価) 管理者は、利用者が「おむつになると認知症も進む」と感じておられ、できる限りおむつを使用せず、トイレ誘導等にて、トイレで排泄できるような支援に努めておられる。おむつを使用されていた方も支援を重ねて、状態が改善され、おむつの必要がなくなったような方もおられ「おしゃれができるようになった」とご本人は喜ばれているようだ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事メニューには栄養士が食物繊維を多く含んだ物を取り入れる工夫をしている。乳製品や水分を多めに摂って頂いたり、アプローチはしているものの、やはり薬を頼っていることが多いので、今後は腹部マッサージ等排便を促すようなアプローチも積極的に行い、出来るだけ下剤等を使わないで済むように努めたい。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に24時間いつでも入浴できるようにしている。朝風呂や日中浴・夜間浴等、個々の利用者のペースや希望に応じて臨機応変に対応できている。個々の入浴チェックや入浴表を活用し入浴が嫌いな方も入浴していただけるように、入浴に至るまでのアプローチや入浴時・入浴後の対応もしっかり心掛けて行っている。個々の入浴方法や介助が必要な方に対しても、その方に合わせた対応ができている。 (外部評価) 「寝る前の入浴」を希望される利用者も多く、利用者の希望に応じて夕食後からも、入浴できるよう支援されている。入浴後、利用者は「今日はよく眠れるわい」と笑顔で言われるようだ。男性職員の介助を嫌がる利用者には、応じておられる。目の不自由な利用者には入浴中、職員が常に声をかけながら、安心して安全に楽しめるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の睡眠状況に応じて、適度に日中居室で休んで頂いている。休まれる時には、室温や光の具合、物音等に気をつけ、心地よく休んで頂けるように気をつけている。夜間眠れない方に対しては、ゆっくりお話をしたり、飲み物等をお出しし、安心して頂けるように支援している。眠剤をできるだけ使用しないように、医師や看護師に相談したり、アドバイスを受けている。就寝時間の決まりはなく、個々の生活のリズムに応じて就寝して頂くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬手帳や処方箋の記載などで薬の効能・副作用を把握しているが全職員がすべてを理解は出来ていない。また、服薬による利用者の変化や反応を介護記録に記載し継続的な観察を行ったり、時には医師・看護師や薬剤師に相談できるように普段から利用者の状態を医師・看護師・薬剤師に伝え情報交換している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 読書や洗濯物干し・たたみ、等、利用者個々の役割や楽しみをスタッフは把握しており、その楽しみを継続して行なえるよう努めている。散歩やドライブ等の気分転換もその時の様子に合わせて行い、毎日晚酌を行っている方もいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩やドライブ、買い物等、利用者の希望にあわせたり、スタッフからお誘いする等、外出する機会を多く持てるように努めている。また、お花見行事や季節に合わせて計画を立てたり、普段の利用者との会話の中ででた場所にいきなり行ってみたりと臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 天気の良い日には、近所に散歩に出かけて、花を摘んで帰ることもある。買い物や温泉、お芝居を見に行かれる方もおられる。初詣や花見、紅葉狩り等、季節に応じて計画を立て外出されている。「宮島に行きたい」と希望される利用者がおられ、利用者2名職員2名で一泊旅行を楽しまれた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人のおこづかいや預かり金等はホームで管理しているが、自分で管理できる方に関しては家族とよく相談した後、預かり金とは別に、おこづかいを管理されている方もいる。買い物や散髪等の時に自分で支払えるよう支援している。管理できない方に関しては、スタッフ同席のもとで支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの電話はあるが、スタッフが利用者から用件を聞き電話する事が多くなっている。手紙に関しては、季節のお便りや年賀状等自分で書ける方に関しては自分で書いていただき、書けない方に関してはスタッフが代筆する等の支援をしている。もう少しその頻度を多くしていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングや玄関は季節によって飾り付けを変えたり、行事等の思い出の写真で壁を飾ったりしている。また、庭で咲いている花を生け季節感を感じられるようにしている。毎月、季節の花や行事に合わせて壁画を利用者と作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、居間にはコスモスの花を飾っておられた。写真が得意な職員が、季節に応じて菜の花、コスモス、田舎の風景等の写真を飾ってくれており、写真を話題にして季節が感じられるようお話をされている。事業所の畑を眺めながら、白菜や大根の収穫を楽しみにされている方もおられる。利用者と一緒に作った、コスモスの花の壁画も飾られていた。又、秋祭りの時期でもあり、はっぴを飾り秋まつりを楽しみにされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食事の場所(席)は利用者の関係性や個々の希望によって、あらかじめ決めているが、それ以外の時間に関しては、それぞれが自由な場所で過ごされている。リビング内の行動は自由で好きなところへ、誰とでも会話等が楽しめるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>見学时や入居時に認知症高齢者の環境の変化に伴う様々な弊害を説明し、利用者の不安や混乱の軽減の為に、使い慣れた物や、馴染みの物を自由に持って来て頂きたい事を伝え、理解・協力をして頂いている。自分で、居室の整理や模様替え等できない方に対しては、一緒に相談しながら協力して、自分の部屋作りの支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅で使用していたタンスや鏡台、時計を持ち込んでおられたり、ご主人が作詞した曲の歌詞を大切に飾っている居室もみられた。以前ご主人が収集していたものを大切に持って来られている方もいる。食事量が減っている利用者もおられ、ご家族が冷蔵庫を持って来られ、好きな物を入れられていた。居室で、お菓子を食べながら演歌歌手のDVDを見ることを楽しみにされている方もおられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の状態を考え、必要などころに手すりや、もたれる事が出来る物、椅子等を置いている。利用者が自分の部屋やトイレ等迷わない為にも、見えやすいところに名札や目印をつけている。リビングでは座位が取れる方は車椅子から普通の椅子に座り変わっていただいたり居室にポータブルトイレを設置したりと個々の力に応じた対応を行っている。</p>	